平成27年度第２回　大阪府市文化振興会議　議事概要

日　　時：平成27年8月26日（水曜日）10時～12時10分

場　　所：大阪府立大学　I－siteなんば　カンファレンスルーム３

出席委員：池末委員、太下委員、佐藤委員、里中委員、中川委員、西村委員、橋爪委員、松尾委員、山川委員、

山口委員、山下委員

司会

○　開会、資料確認、会議成立の確認（出席者11人／委員全員12人）

会長

○　会議の公開の宣言

議事１　アーツカウンシル部会の取組について

佐藤委員（アーツカウンシル部会長）

○　アーツカウンシル部会の取組報告及び資料１・２の説明

・　６月に開催した第１回会議での報告以降の活動及び発足後２年間の活動を報告する。

・　調査事業の１つ目は、芸術文化魅力育成プロジェクト（以下「中之島のっと」という。）の調査事業を外部に委託して実施。ヒアリング等を実施し報告書を作ってもらう。中之島のっとは、事業費の中でPDCAのCA部分をやりたかったが、予算等の制限があり実施困難であったため、この部分をアーツカウンシルですることとした。中脇さんに委託。

・　調査事業の２つ目は、大阪市立芸術創造館の将来について。当施設は、芸術表現を目的とした活動を支援する施設として生まれたが、年数がたって老朽化が進んでいることから、大阪市から依頼を受け、調査等を企画中。

・　また、３つめ、４つめの企画案も準備中。３つめは、公募型助成金について検討中。例えば大阪市では、文化課所管27事業のうち芸術活動振興事業助成金が約6300万円と予算額が一番多い。助成金事業について、今までのやり方で効果が上がるのだろうかということで、H25からアーツカウンシル部会で審査を実施しながら改善を図る仕組みづくりをし効果が出てきているところ。応募の説明会と事業報告をセットでする等の取組により、大阪市の助成金の場合、H27上半期で71件の応募があった。今まで知っている人だけが応募してきていたが、新顔が出てきた。

・　さらに、大阪市芸術・文化団体サポート事業では、ふるさと納税を利用し、伝統芸能の分野も対象。上方落語の海外公演等上方落語振興のための活動を続ける団体等にも助成しており、報告会等を通じて文化事業者のネットワークをつくっていきたい。

・　アーツカウンシル東京、日本版アーツカウンシル、さらにアーツカウンシル　イングランドではいずれも助成金の審査を実施しており、当会も助成金事業審査事業を大切にしたい。

・　大阪府においても、公立ホール等を運営している法人でも申請をできるようにしたところ、吹田市や高槻市、八尾市等意欲的な団体がでてきており、交流が生まれてきた。さらに、豊中市、高槻市、堺市では文化施設の建替によって活動が活発になっておりネットワークができてきている。

・　４つめとしては、アーツカウンシルそのものについて調査を検討中。文化庁の「文化芸術の振興に関する基本的な方針（第４次基本方針）」では、重点戦略として日本版アーツカウンシルの本格導入を、また、「文化プログラムの実施に向けた文化庁の基本構想」では、文化力プロジェクトとして20万件を目標、地域版アーツカウンシルについて記載している。このアーツカウンシルをどこが組織してだれが運営するのか、どうすれば機能するのか文化庁ともコラボしていきたい。太下委員が文化庁審議会委員でいらっしゃるので後ほどご意見賜りたい。

・　大阪アーツカウンシルとしては、大阪の文化ビジョンである条例や文化振興計画の実現に向けてその実行の後押しをしていきたい。

・　また、大阪アーツカウンシルによって変化あるいは始動した事業としては、プロデューサー等中間支援人材の育成を目的とした中之島のっと。

・　また、文化振興計画の「人と地域のエンパワーメント」方向の充実に向けて、大阪市では、アートと文化の社会包摂機能に着目した「地域等における芸術促進事業」をスタート。また、府は、大阪府立江之子島文化芸術創造センターを文化で地域課題に取り組む支援拠点としている。これらは全国でも先進的な取組みであるといえる。

・　また、ワッハ上方については、かつてはホールもあったが今は資料館として運営している。アーツカウンシルに対し将来像の意見をもとめられ、「上方演芸の歴史を伝えるための資料・情報の蓄積と継承が府の使命」と提言したところ、運営について、平成２７年度から指定管理から直営に変更。さらに資料の整備・活用方策を検討しているところ。参考資料（ちらし）で、「わたしたちの上方演芸遺産事業」を案内しているが、この基本をゆるぎないものとしてがんばってほしい。

・　さらに、資料２のとおり、アーツカウンシルの調査事業を担える人材を育てるため、「アーツマネージャー育成講座」を開始。第２回目は大阪クラッシックで実施。

○　資料３（中之島のっと実施プログラム）について、事務局から説明

・　資料３のほか参考資料としてロゴマークを添付。

・　山本能楽堂、一般社団法人KIO他で構成するOPEN Osaka実行委員会、河内長野市ラブリーホールで世界民族音楽会を実施しているかわちながの世界民像音楽祭共同企業体、enocoの指定管理者であるTSP太陽株式会社の４者が共同で事業実施。

・　事業名「中之島のっとknot」の「knot」は結び目、きづなという意味で、事業者の事業に対する熱い思いがつまっている。

・　事業は10月２日から11月10日までの週末を中心に開催。船を使ったプログラムも用意。20ものプログラムを提供。

（内容）

・　上方伝統芸能を中心としたプログラムとして次のコンセプト別に実施

①上方伝統芸能を紹介し興味をもってもらう

　　初心者のための上方伝統芸能SHOWとして、いいところをとったショートプログラムで紹介。

桂南光さんも出演予定

②上方伝統芸能を体験し理解を深めてもらう

③伝統芸能は現代アートの可能性を探る

④他ジャンルとの連携で魅力を発信

現代美術家やなぎみわ制作のトレーラー使用。条件面での調整が難しく、最終的には大阪市新美術館予定地で開催。

・　伝統と演劇・ダンス等

海外とのコラボ、現代舞踏と伝統音楽のコラボ、弁天町を拠点とするパフォーマンス集団「ikura circus」による公演

・　伝統×ワールドミュージック

サキタハヂメ氏ののこぎり音楽やちんどん通信社等が出演

・　伝統と現代アート

「休憩室　ご自由にお使いください」という題名で、様々な芸術との出会いの場を提供のほか、梅田哲也氏の船上でのパフォーマンス等

・　この時期、中之島公会堂の周辺ではカンヴァス推進事業やFM802の事業等、様々な催しものが開催。

・　10月2日は、、カンヴァスのオープニングとして中之島公会堂の施設をフル活用しネット中継される予定。

・　４事業者による共同開催には課題があった。それぞれは大阪の文化をなんとかしたいという思いがあるが、今まで各々で活動してきておりなかなか歯車があわなかった。このため、総合プロデューサーをおいてはどうかという意見や、中間支援者をおいてはどうかという意見もあった。

・　しかし、私見ではあるが、打ち合わせを続けていくうちに、少し変化が出てきたように感じられる。自分の主張だけでなく、どうしたらうまくできるのかを考えられるようになってきた。

・　今後この事業プロセスについて、共有を図り、アーツカウンシルの調査報告を受け、対外的に情報発信を図りたい。

・　また、第１回会議で、ガイドブックを作ったほうがよいというご意見をいただいたが、ガイドブックと専用ＨＰは作る予定。

・　委員の方々にも広報等ご協力をお願いしたい。

（出席委員からの主な意見）

・　今年度５月に文化庁の「文化芸術の振興に関する基本的な方針（第４次基本方針）」が、また７月１７日に「文化プログラムの実施に向けた文化庁の基本構想」が発表された。

・　文化力プロジェクトとしてイベント数20万件、参加人数5000万人を目標としているが、一言も予算がでてこないし、仕組みもまったく決まっていない。

・　文化庁が進める文化プログラムは、①わが国のリーディングプロジェクトの推進、②国が地方公共団体、民間とタイアップした取組の推進、③民間、地方公共団体主体の取組支援となっている。

・　20万件を認定しようとすると１事業１分で審査するとしても一人だと20万分、２年かかることになり、国で認定するつもりはなく、都道府県等が認定することを検討している。ここで地方版アーツカウンシルがでてくる。

・　おそらく、地方版アーツカウンシルによる認定により20万件を認定するイメージをしており、さらに地域でアーツカウンシルが自主的にできてくれることを期待している。

・　アーツカウンシルの動きは、大阪のほかは東京と沖縄ぐらい。先行している大阪アーツカウンシルはさらに充実させ、文化プログラムを認定できるようにしてほしい。また、関西地域のそういった動きをサポートしていただきたい。

・　文化力プロジェクト20万件、5000万人であれば、大イベントではなくて、今実施している事業を認定するイメージだと思う。

・　大阪アーツカウンシルについてはよくやっていただいているが、もともとのイメージには至っていない。これには予算が必要。文化に予算を使えば地域が活性化できることを首長・議会に理解していただきたい。

・　佐藤委員のご説明にあった助成金の申請が増えたことはとてもよいことである。調査というのはシンクタンク機能であるが、組織内あるいは別機関でもいいが、是非行政の機能として必要ということを理解してほしい。延長線上に、都市魅力の向上、さらに関西の魅力向上につながっていくので、制度設計を検討願いたい。

・　中之島のっとのＰＲについては是非外部機関を使ってやってほしい。

議事２　その他（大阪アーツカウンシルの取組及び府市文化振興計画に係る事業の取組及び成果について）

○　「資料４　大阪アーツカウンシルの取組」について事務局から説明

・　大阪府市はそれぞれ文化振興計画があるが、府民・市民の自主性・創造性が発揮されることを目指しており、文化施策の評価等を行うアーツカウンシルの仕組みを導入した。

・　資料４のアーツカウンシルの取組について説明させていただく。

・　まずは評価機能として、平成25年度半年の間で府市事業約100件の事業の調査を実施していただき、各事業の評価と提案をいただいた。事業を切るための評価でなく、より効果的に事業を実施するための評価である。

・　今まで文化事業を実施する事業者の方との意見交換もできていなかったが、府内における文化を取り巻く環境を把握することができた。

・　各事業が目的を果たしているのかどうか評価いただき、できることから改善している。

・　ワッハ上方をH27.4～直営としたのも評価・提言を受けての対応。

・　さらに、文楽協会への補助金のあり方も検討し提言いただいた。

・　企画機能については、「文化資源は豊富だがジャンル間のつながり交流が薄い」「事業を実施するプロデューサー等の人材不足」という大阪の課題を解決するための企画をご提案いただき、中之島のっとにつながっている。単なるイベントではなく、実験、挑戦、成果を蓄積し、プロデューサー等の人材育成、文化振興の土台づくりにつなげていきたい。

・　調査機能その他では、大阪アーツカウンシルの専用HPを作っていただき情報発信していただいている。また、江之子島文化芸術創造センターにアーツカウンシルの出張ルームを設置し、週１回相談に応じていただいている。

・　課題としているアーツカウンシルの体制整備については大きな課題と認識。また、府市事業のPDCAサイクルの確立と定着も課題。

・　予算の確保・アーツカウンシル機能の充実強化の検討が必要。

○　資料５（第３次大阪府文化振興計画に係る主な施策・取組について）について事務局から説明

・　ポイントのみ説明する。

【基本方向Ａ「文化創造の基盤づくり」】

①大阪の街をつかいこなす～都市全体を発表の場に～

■Ｐ１　おおさかカンヴァス推進事業

・　行政直営事業

・　毎年テーマあり

・　今年６年目。ようやく認められてきたところ。テレビカメラの取材も増えてきた。

・　Ｈ26に全国知事会による第７回先進制作大賞受賞

・　Ｈ27はシンボルイヤーのため予算倍増の51,000千円

・　参考資料として、H27の作品を掲載しているのでご覧ください。

・　10月初旬から10月中旬に中之島、御堂筋、道頓堀、水の回廊を使って開催。

・　次年度以降どうするのか検討中。

②府民の思いを都市づくりに活かす～官民協働のプラットフォーム

■Ｐ３　プラットフォーム形成支援事業

・　様々な分野の案件を実施し、事業を通じて関係者が対等な立場で意見を出し合い、行政課題の解決に向けた合意形成を図るプラットフォームの設計と実施

③「府民の力で文化を育てる」～民間の力を最大限に活かす仕組みづくり

・　府として十分に対応できていない部分。現在、文化振興のための寄附をいただく文化振興基金があるが、個別事業に対する寄附をいただく仕組みづくりができていない。

【基本方向Ｂ「都市魅力の向上」】

④「地域資源を活かした大阪の魅力向上」～大阪ミュージアム構想の推進

⑤「大阪固有の文化の継承、新たな文化の創造」

■Ｐ６　上方演芸遺産を活かした地域活性化事業

・　参考ちらしの事業で、府の予算はないが、文化庁の補助金を活用した事業

■Ｐ７中之島のっと

・Ｈ２７新規事業

⑥「エンターテイメントによる都市の活性化」～ひと・モノ･投資を呼び込む

【基本方向Ｃ「人と地域のエンパワーメント」】

⑦「あらゆる施策に文化力を活用」

⑧「未来を担う次世代の育成」～子どもの心に感動を！

■Ｐ１３芸術文化振興補助金と輝け！子どもパフォーマー事業

・　今まで補助金を出すだけであったが、説明会とともに事例報告会を開催したところ、事業者間のネットワークがつくられるとともに、事業応募件数が増加し事業内容も充実してきたところ。

■Ｐ１５　大阪府文化芸術創造発信事業

・　新国立劇場バレエ団による「こどものためのバレエ劇場」の大阪公演の実施。国制度の活用及び民間と連携、Ｈ２６にはプロ指導によるワークショップも開催

⑨「文化振興への府民意識の醸成」

・　第３次計画で新しく創設された施策の方向性

■Ｐ１７　なにわなんでも大阪検定

・　今年で７年目

・　残念ながら受験者が減少傾向

・　大阪の魅力を知り語れるように、府の若手職員に受験を薦めている。

○　資料６（大阪市文化課所管事業の進捗状況について）について事務局から説明

【基本方向Ａ「文化創造の基盤づくり」】

①大阪の街をつかいこなす～都市全体を発表の場に～

No.1大阪クラシック

・　今年で10年目

・　アーツカウンシルからの他事業との連携等について提案いただき、水都大阪との連携等を図った。

・　特設サイトの開設やツィッター等で情報発信した。

・　Ｈ27はお勤めの方にも参加いただけるよう夜の部を増やしたり、こども連れＯＫを増やした。

・　参考資料としてちらしを添付

②府民の思いを都市づくりに活かす～官民協働のプラットフォーム

③「府民の力で文化を育てる」～民間の力を最大限に活かす仕組みづくり

No.4芸術・文化団体サポート事業

・　H27新規事業

・　現在寄附総額は200万円程度。

【基本方向Ｂ「都市魅力の向上」】

④「地域資源を活かした大阪の魅力向上」～大阪ミュージアム構想の推進

No.5咲くやこの花賞受賞者支援事業

・　アーツカウンシルからの提言を受け、受賞者のステップアップのサポートに重点をおいた事業とした。

・　フェイスブック、ツイッターを使って受賞者の活動を紹介

・咲くやこの花コレクションの開催回数：H25３回⇒H26　８回

・　結果として、各公演後のアンケートで満足度、認知度とも徐々にアップ

No.8地域文化事業

・　アーツカウンシルから応募のある区・事業に偏りと固定化の傾向があるとの意見をいただき、各区に応募を積極的に促す取組みを実施した。

⑤「大阪固有の文化の継承、新たな文化の創造」

No.10咲くやこの花賞

・　アーツカウンシルから受賞者の活動を紹介する等の支援について提言をいただき、ＨＰにおいて受講者の活動紹介を開始

No.12三次達治賞

・　アーツカウンシルから提言を受け、賞の応募期間中に大阪市中央図書館と連携し、賞の応募期間中に特集コーナーを設置していただき、ＰＲを強化した。

No.13織田作之助賞

・アーツカウンシルからの提言を受け、18歳以下のU-18賞を新設。ネクストステージとして関西大学での講演会も実施。

No.15芸術活動振興事業助成金

・H27から、上方演芸枠を創設したところ、応募数が増加した。

No.19文楽を中心とした古典芸能振興事業

・H27新規事業

・文楽劇場に足を運んだことのない市民が気軽に楽しめる機会を提供

・FMラジオでの情報発信。

・ツイッター等で反響があった。

No.20中之島のっと

・　前述の説明のとおり

⑥「エンターテイメントによる都市の活性化」～ひと・モノ･投資を呼び込む

【基本方向Ｃ「人と地域のエンパワーメント」】

⑦「あらゆる施策に文化力を活用」

No.21地域等における芸術活動の促進事業

・　H27新規事業

・　参考ちらしあり。佐藤委員からの説明いただいたところ。

・　8/14にキックオフ・フォーラム開催したところ。これからフィールドワークを開始。事業の実施成果と課題をまとめて来年度事業を展開予定

⑧「未来を担う次世代の育成」～子どもの心に感動を！

No.22舞台鑑賞会（オーケストラ）

・　タイトルから「青少年のための」をとり、料金引き下げ、ＰＲに努めた結果、集客アップとなった。

No.23舞台鑑賞会（歌舞伎、能・狂言、文楽）

・　H27からは、落語や上方舞等の公演もできるよう「伝統芸能」の枠を新設。夏休み親子ペア鑑賞会は、H26 ２，５０３人⇒H27 ２，９５１人と増加した。

No.24中高生のための文楽鑑賞教室

・　校長会で説明したところ、応募数が増加

No.25　中学生が参加するコンサート

・　中学生がプロのオーケストラと一緒に練習し同じ舞台に立つ体験型事業であり、次世代育成事業としての発展が期待できるとの評価を受け、第一級の音楽に親しみが持てるよう、一人でも多くの学生がプロと競演できるような企画として実施し、参加者数が増加した。

⑨「文化振興への府民意識の醸成」

No.27文楽を特色とする地域魅力創出偉業

・　H27新規事業。

・　文楽を特色とするエリアをしないに創出することで、地域及び文楽の魅力発信を実施する事業。

・　文楽ゆかりの地マップを作成予定で、HPにアップ予定。

（出席委員からの主な意見）

・　大阪府文化振興計画と大阪市文化振興計画の方向性を合わせたことが画期的。

・　佐藤さんにお礼を申し上げる。よく引っ張ってくださった。山川委員、山口委員、山下委員にもお礼。

・　事業効果が出ている。

・　府市には、バックアップ体制を強化してほしい。

・　１点お願いがある。参考につけていただいているチラシはばらつきがあり、統一コンセプトがない。せめて、チラシの角に「この事業は、府（市）文化振興計画の施策方向Ａ「文化創造の基盤づくり」にそった事業です」というような内容を入れてほしい。基本方針に基づいて事業を実施しているとアピールする必要があると思う。

・　大阪文化賞で、プロデューサーにも賞を上げて前例をつくってほしい。

・　アーツカウンシルということでは、堺市・東大阪市・八尾市・枚方市・高槻市がホールの建替期であり、条例等文化政策を検討している中で市版アーツカウンシルについても考えている。その時に見本になっているのがこの大阪アーツカウンシルである。自信をもってもらうとともに、お手本となってほしい。

・　アーツカウンシルによる調査・評価がスタートし、府市がそれに応えて事業改善を実施しており感動している。

・　辛口なことを言えば、アーツカウンシルの評価は監査と一緒。成果については見るためには、３ヵ年の推移とともに、３年間の事業実績を数値で表してほしい。各事業の効果がどのように生じたか、なぜ生じなかったか等の評価は行政自身が行えるはず。

・　大阪府立江之子島文化芸術創造センターにおいても、アーティストのサポートをしているが、プロデューサーのサポートをしてほしい。

・　大阪マラソンについては、欧米のマラソンのように、セントラルゴールをめざし、そこで文化事業を実施し、両方をプロモーションする等、文化の方から提案してほしい。

・　事業について、次世代育成としてこどもに文化的経験をさせることはもちろんよいが、子どもだけでなく、ゆとりのできた定年以降の高齢者にも、文化のふれあいを促進するような事業、例えばバウチャー券を渡す等を考えてほしい。

出席委員の皆様から任期最後のご意見

・　大阪ががんばらないと東京もよりよくならない。大阪は一地方にならないよう、文化への投資がもっと必要である。

・　資料１の課題に対する解決策として、大阪府立江之子島文化芸術創造センターにアーツカウンシルセンターを置き、アーツカウンシル部会から業務委託することを提案する。

・　全国的に東京になにもかも集中しすぎていると感じている。全国で２，３箇所拠点が必要。予算規模が違うので東京のまねをする必要はないが、工夫してほしい。

・　太下委員のアーツカウンシルセンターの話はとてもよいと思う。委員にも任期があり、職員も異動があるので、きちんと継続的に事業をするところが必要。

・　佐藤委員、引き続きよろしくお願いする。

・　佐藤委員にお礼を申し上げる。引き続きよろしくお願いする。

・　太下委員のアーツカウンシルセンターは願望であり、拠点化は必要と思っている。

・　私としては、横浜市の文化施策がライバルと思っている。横浜市が解説した小空間「ＳＴスポット」を運営するNPO法人STスポットでは、神奈川県教育委員会・文化部局等と連携し、小中学校等への事業を実施している。大阪では小学生への事業が少ないと感じている。

・　文化において、プロデューサーやコーディネーターの視点をあてるのは大事であると思っている。天満橋商店連合会長の土井さんのような人がアートの世界にも必要である。

・　もっと予算額を増やしてほしい。京都府に負けている。もっと職員の方にがんばっていただいて予算をつけてもらう必要がある。

・　事業は選択と集中が大切。府民市民の意識醸成等も必要であるが、その中で、世界一になるものに集中してほしい。

・　府には広域行政として、府域をまとめてもらう必要がある。

・　佐藤委員にお礼申し上げる。引き続きお願いする。

・　カンヴァス事業、中之島のっと、大阪クラシックともがんばってほしい。

・　35年前から大阪の文化を見てきている。過去は施設ありきの文化振興事業であったが、中之島のっとのように事業者間のプログラムにより実施できるようになった。

・　ただ、大阪府市の公金だけで事業実施しているが、メセナや寄附、公演代等で民間も支える仕組みが必要。

・　アーツカウンシルでいえば、ベルリンは国にアーツカウンシルがあり、カナダでは地域にアーツカウンシルがある。よい事例を学んでほしい。

・　中川委員が言われたように、府内市町村と連携しないといけない。

・　目玉事業としては、アーツカウンシルであり、評価⇒実践⇒改善の取組みがされたが、これは佐藤委員にアーツカウンシル部会の会長についていただいたおかげ。

・　府市職員におかれては、中之島のっとの推進、文化振興に力を入れていただきたい。

・　自分の役割としては、評価の見える化、図案化と意識していた。

・　委員には任期があり。メンバーには新しい方を迎えることを繰り返しながら、検討内容や文化への思いを引きついていかなければならない。

○会長が、本日の審議について、次のようにまとめを行った。

・　委員を引き受けたときは文化施策の過渡期であったが、府市の方向性をそろえることができた。

・　文化振興とは何ぞやに対し視点を示せたのではないかと思う。一つは文化による都市魅力の創造、もう一つは文化による地域課題の解決、社会包摂である。

・　大阪独自のコンテンツ、仕組みを持っていただきたい。

・　次期計画は、次のメンバーにゆだねられるが、府市職員は、各委員の思いを次期委員に伝えていただきたい。

会長

・閉会の宣言